

鮎京正訓「日本におけるベトナム法研究の現状と課題」

大西和彦「ベトナムにおける中国仏教儀礼——水陸会——の変容について」

加藤 栄『『自力文団』の文学と『新学』知識人の位相』

川口健一「ベトナム近代文学の成立をめぐる」

高田洋子「20世紀初頭のメコン・デルタ国有地払下げ——フランス植民地支配下の水田開発——」

日隈真澄「ベトナムにおけるアジアの生産様式研究について」

(資料散逸につき発表順不明)

第2回(85年7月27日-29日 於箱根強羅温泉)

27日

白石昌也「欧米におけるベトナム研究の動向」

古田元夫「ベトナムにおける歴史研究の現状と問題点——周辺世界への認識を中心として——」

28日

宇野公一郎「雲南出土早期銅鼓についての議論」

桃木至朗「ヴェトナム史の時代区分——前近代編——」

佐世俊久「ヴェトナム黎朝刑律に関する研究史整理」

細井佐和子「ゲ・ティン・ソビエト運動とベトナム共産党」

今井昭夫「1920年代・30年代初頭に於ける儒教護教論についての若干の考察」

29日

## 若手ベトナム研究者の 合宿活動(1983-89)

八尾 隆生

本合宿は若手ベトナム研究者の研究発表、情報交換、親睦などを目的として、1983年より84年を除いて毎年夏季の休みを利用して実施されているものである。今まで開催された6回の合宿の発表内容は以下の通りである。

第1回(83年7月29日-31日 於長野美ヶ原温泉)

- 五島文雄「ベトナム経済の現状——  
「通貨・商品の掌握」問題を中心と  
して」  
(コメント:日隈真澄「南北統一以降  
のベトナムの経済政策について」)
- 第3回(86年8月22日-24日 於伊豆湯  
ヶ島温泉)
- 22日  
栗原浩英「ハノイ報告」
- 23日  
宇根祥夫「ベトナム語文法のいくつか  
の問題点」  
レー・ヴァン・クー「ベトナム語にお  
けるムードの表し方——DA, MOI,  
DUOC, BIを中心に——」  
今井照夫「Ngo Tat Toの思想につい  
て——1930年代・40年代初頭におけ  
る知識人の一軌跡——」  
加藤 栄「現代ベトナム文学の新しい  
傾向——1980年代の小説を中心に  
——」  
川口健一「チュー・ノム(字喃)文学  
について」
- 24日  
日隈真澄「ベトナム共産党第6回大会  
の展望」
- 第4回(87年8月26日-28日 於奈良生  
駒山上)
- 26日  
桃木至朗「ハノイ報告」
- 27日  
川口健一「チュオン・ヴィン・キ——  
一知識人の軌跡——」  
高田洋子「日本におけるベトナム史研  
究」  
菊池道樹「サイゴン開港の歴史的意  
義」
- 中野亜里「統一後のベトナムの対外政  
策」  
白石昌也「ホー・チ・ミンの指導者像  
に関する一考察」
- 28日  
総括(司会:白石昌也)
- 第5回(88年8月26日-28日 於静岡館  
山寺温泉)
- 26日  
栗原浩英「ハノイで楽しくすごす方法  
はあるか」  
細井佐和子「ベトナム帰国報告——最  
近の映画事情——」  
スライド上映(桃木至朗)
- 27日  
松尾信之「ベトナム北部におけるフラ  
ンスの村落政策——今世紀初頭まで  
の直接税制度に焦点を当てて——」  
ベトナム映画上映(『十月はいつ来る  
の』加藤栄)
- 嶋尾 稔「ベトナム阮朝と南圻フロン  
ティア社会」  
菊池道樹「19世紀後半, 仏領コーチ  
ナの耕地と人口」
- 28日  
早川雅美「Hai Ba Trungの伝承につ  
いて——Hai Ba Trung 指揮下の諸  
将の伝承を中心に——」  
日隈真澄「ダン・タインさんをお招き  
して——ベトナム戦争と情報戦——」
- 第6回(89年8月25日-27日 於滋賀雄  
琴温泉)
- 25日  
大野美紀子「嘉定米について」  
Pornpen Hantrakool, “Ngon Co Gio

Dua, A Philosophical Novel of  
Ho Bieu Chanh”

25日

シンポジウム——ベトナムにおける国家・民族の「統合」をめぐる——  
古田元夫「ベトナム現代史における『ベトナム』」(問題提起)

桃木至朗「ベトナム前近代の国家と民族」

高田洋子「仏領期の華僑社会：形成と変容——植民地政策との関連を中心に——」

竹内郁雄「統一ベトナムの経済社会研究について」

中野亜里「国際関係の中の統一ベトナム」

総合討論(司会：白石昌也)

ベトナム映画上映(『「思いやり」についての話』加藤栄)

26日

今井昭夫「ベトナム交流報告」

吉井美知子「チン・コン・ソンのうた」

(以上の発表の外、毎夕食後には懇親会を開催し、研究の現状、史料の所在等の情報交換を行っている)

会に関して特に規約らしいものは何もない。個々の専門分野も多岐にわたっている。“若手”と銘打っているが、年齢制限も参加資格もなく、89年版の名簿には70人弱の氏名が登録されている。

合宿の内容にしても、幹事に大幅な運営上の裁量権が委ねられているが、最近のベトナムの開放政策を反映して、留学帰りの者もしくはベトナム人による報告が第3回以降必ず行われている。その内

容も研究・語学研修から食事・レクリエーションにまで及び、いかにして悪評の多いハノイで生活すべきかが、実感を交えて語られる。また一般の発表も、卒論・修論の報告から学会発表用の報告まで様々である。

前回の第6回の合宿では、桃木至朗(大阪外国語大学)・岩井美佐紀(東京外国語大学院生)それに筆者(八尾隆生、学振特別研究員)の3人が幹事となって運営をとりしきり、初の試みとして、本学会の形式をもとに統一テーマによるシンポジウムを行った。いずれも熱のこもった報告であったが、幹事の事前の準備が十分でなかったため、総合討論でいまひとつ盛り上がり欠けたのが悔やまれる。合宿の内容を充実させるため、システムティックな要素を取り入れることも必要であるが、この会が本来持っているいい意味での「無定型さ」とどう調和させるかが、今後の課題である。なお、第6回の発表について、報告書が作成され参加者に配布されている。関係者以外で配布を希望される方は八尾隆生まで御連絡いただきたい。

(連絡先 〒535 大阪市旭区森小路 1-13-9  
TEL 06-952-9511)